

26保衛第1552号-4

平成26年9月3日

公益社団法人福岡県医師会長
公益社団法人福岡県病院協会長
一般社団法人福岡県私設病院協会長
公益社団法人全国自治体病院協議会福岡県支部長
一般社団法人福岡県精神科病院協会長

） 殿

福岡県保健医療介護部長
(保健衛生課感染症係)

デング熱の国内感染症例（第四報）について（通知）

本県の保健医療行政の推進につきましては、平素から格別の御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

このことについて、厚生労働省健康局結核感染症課から、別添（写）のとおり通知がありましたのでお知らせします。

つきましては、貴会会員に対して引き続き周知をお願いします。

なお、今後当面の間の発生状況については厚労省のホームページにて公表されることとなっておりますので、申し添えます。

(担当)

保健医療介護部保健衛生課
感染症係 諸藤

TEL:092-643-3268

FAX:092-643-3282



事 務 連 絡
平成 26 年 9 月 2 日

各 { 都 道 府 県
保健所設置市
特 別 区 } 衛生主管部（局）御中

厚生労働省健康局結核感染症課

デング熱の国内感染症例について（第四報）

日頃から感染症対策への御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

国内でデング熱に感染した患者が、新たに 12 名（最近の海外渡航歴なし）確認されました（別添 1）。各症例について、関係自治体から、別添 2 から 5 までのとおり公表されていますので、情報提供します。

当面の間、全国のデング熱の国内での感染が疑われる症例の発生動向を定期的に取りまとめ、公表することとしておりますので、引き続き、医療機関から国内での感染が疑われる症例の情報が提供された場合は、直ちに当課まで情報提供をお願いします。

参考資料

別添 1：デング熱国内感染事例 現時点での疫学情報のまとめ（平成26年 9 月 2 日）

別添 2：東京都記者発表資料（平成26年 9 月 2 日）

別添 3：青森市記者発表資料（平成26年 9 月 2 日）

別添 4：山梨県記者発表資料（平成26年 9 月 2 日）

別添 5：高槻市記者発表資料（平成26年 9 月 2 日）

ホームページ

厚生労働省 デング熱について

(http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever.html)

国立感染症研究所 デング熱とは

(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/encyclopedia/392-encyclopedia/238-dengue-info.html>)

別添1

デング熱国内感染患者 現時点での疫学情報のまとめ

平成 26 年 9 月 2 日
 国立感染症研究所
 ウイルス第一部
 感染症疫学センター

症例 番号	年齢 性別	居住地	医療機関 所在地	発症日	代々木公園	蚊の刺咬	備考
1	10 代 女性	埼玉県	さいたま 市	8 月 20 日	行った (8/11, 8/14, 8/18)	あり	8/27 公表
2	20 代 男性	東京都	東京都 新宿区	8 月 24 日	行った (日は未確定)	あり	8/28 公表
3	20 代 女性	埼玉県	埼玉県	8 月 18 日	行った (8/1, 4, 6, 8, 11, 14, 18)	あり	8/28 公表
4	10 代 男性	埼玉県	さいたま 市	8 月 16 日	行った (8/9～8/10)	不明	9/1 公表
5	50 代 男性	千葉県	千葉県 柏市	8 月 27 日	周辺に行った (8/15, 16, 17, 18, 21, 23, 24, 25)	あり (8/23)	9/1 公表
6	50 代 男性	東京都	東京都 渋谷区	8 月 25 日	行った (毎日)	あり	9/1 公表
7	10 代 男性	東京都	東京都 文京区	8 月 24 日	行った 8/20 頃	不明	9/1 公表
8	40 代 女性	東京都	東京都 新宿区	不明	行った (8/18)	不明	9/1 公表
9	30 代 女性	東京都	東京都 渋谷区	8 月 24 日	行った (毎日)	不明	9/1 公表
10	20 代 男性	東京都	東京都 渋谷区	8 月 17 日	行った (8/10 頃)	不明	9/1 公表
11	10 歳 未満 男児	東京都	東京都 渋谷区	8 月 21 日	行った (8/16)	あり	9/1 公表
12	10 代 男性	東京都	東京都 新宿区	8 月 18 日	行った (8/11)	不明	9/1 公表

13	30代女性	東京都	東京都新宿区	8月23日	行った (8/10)	不明	9/1公表
14	40代女性	東京都	東京都新宿区	8月28日	行った (8/20)	不明	9/1公表
15	30代男性	東京都	東京都渋谷区	8月22日	行った (8/17)	不明	9/1公表
16	20代男性	東京都	東京都港区	8月16日	行った (8/9～8/10)	不明	9/1公表
17	20代男性	東京都	東京都江戸川区	8月25日	行った (8/20)	あり	9/1公表
18	30代男性	東京都	東京都練馬区	8月24日	行った (8/17)	あり	9/1公表
19	10代女性	茨城県	茨城県つくば市	8月23日	周辺へ行った (8/16～18)	あり	9/1公表
20	10代女性	神奈川県	神奈川県横浜市	8月23日	代々木公園周辺を通った。 (8/16-18)	覚えていない	8/31 疑い例として公表
21	20代男性	神奈川県	神奈川県横浜市	8月25日	行った (8/18)	あり	8/31 疑い例として公表
22	10代男性	新潟県	新潟県新発田市	8月24日	代々木公園周辺を通った。 (8/20)	あり	8/31 疑い例として公表
23	20代女性	東京都	東京都	8月26日	公園及び周辺に行った (8/21)	あり	9/2公表
24	10歳未満男児	東京都	東京都	8月24日	公園及び周辺に行った (8/16、17)	あり	9/2公表
25	20代女性	東京都	東京都	8月14日	公園及び周辺に行った (8/10)	あり	9/2公表
26	20代男性	東京都	東京都	8月25日	公園及び周辺に行った (日は未確定)	あり	9/2公表
27	50代男性	東京都	東京都	8月30日	公園及び周辺に行った (日は未確定)	あり	9/2公表
28	20代女性	東京都	東京都	8月29日	公園及び周辺に行った (日は未確定)	あり	9/2公表
29	20代男性	東京都	東京都	8月25日	公園及び周辺に行った (8/18)	不明	9/2公表
30	20代男性	青森県	青森市	8月25日	行った (8/19)	あり	9/2公表

31	10代 女性	山梨県	山梨県	8月23日	代々木公園周辺 (8/16～18)	あり	9/2公表
32	10代 女性	大阪府	大阪府 高槻市	8月30日	行った (8/25, 26)	あり	9/2公表
33	10代 女性	大阪府	大阪府 高槻市	8月31日	行った (8/25, 26)	覚えて いない	9/2公表
34	10代 女性	大阪府	大阪府 高槻市	9月1日	行った (8/25, 26)	覚えて いない	9/2公表

別添2 東京都記者発表資料

平成26年9月2日

福祉保健局

デング熱の国内感染症例について(第3報)

都内医療機関から、新たに海外渡航歴がないデング熱患者7名の届出がありました。患者はいずれも都立代々木公園及びその周辺に訪問等をしていたことが確認されています。

なお、現時点で重篤な症状を呈する患者は確認されておられません。

9月1日に届出のあった患者の概要及び専用相談電話の実績について、以下のとおりお知らせします。

1 患者について

	届出受理日	年代性別	発症日	推定感染日
1	9 / 1	20代女性	8 / 26	8 / 21
2	9 / 1	10歳未満男性	8 / 24	8 / 17
3	9 / 1	20代女性	8 / 14	8 / 10
4	9 / 1	20代男性	8 / 25	不明
5	9 / 1	50代男性	8 / 30	不明
6	9 / 1	20代女性	8 / 29	不明
7	9 / 1	20代男性	8 / 25	8 / 18

報道発表済みの患者数14名

2 専用相談電話実績（電話番号 03-5320-4179）

8 / 28（木）～8 / 31（日）	9 / 1（月）	合計
172	111	283

平日午前9時から午後7時まで

平成 26 年 9 月 2 日

青森市政記者会 様

青森市健康福祉部
青森市保健所長

デング熱の国内感染症例について

平成 26 年 8 月 29 日（金）青森市内の医療機関から当保健所に、代々木公園で蚊に刺された患者が発熱しており、デング熱の可能性があるとの連絡がありました。青森県環境保健センターを通じ、東京都の国立感染症研究所で検査を行ったところ、デング熱に感染していることが確認されました。患者の概要等について以下の通りお知らせします。

記

1. 患者について

（1）年齢等 市内在住 20 代男性

（2）海外旅行歴 なし

（3）発症・受診状況

8 月 25 日 発症 39 度台の発熱。

26 日 市内の医療機関を受診。

27 日から 28 日 39 度台の発熱が継続。

29 日 朝 40 度の発熱。再度市内の医療機関を受診。

医療機関より、患者が 8 月中に代々木公園を訪れており、デング熱の可能性があるとの情報が当保健所によせられた。

（4）症状

発熱・倦怠感・関節痛・発疹

現在快方に向かっている。

（5）蚊の刺咬歴

8 月 19 日 東京都を旅行中、都立代々木公園を訪れた際に蚊に刺された。

（6）検査・診断

9 月 2 日 国立感染症研究所の検査の結果、デング熱に感染していることが確認された。

2. 推定感染地域

調査の結果、

- ・ 本件患者が発症前に都立代々木公園を訪れ、蚊に刺されたことが確認されていること。
- ・ 同じ公園内で蚊に刺された複数の方がデング熱に感染していること。
- ・ 本件患者は発症前の海外渡航歴はないこと。

などから、都立代々木公園でデングウイルスを保有している蚊に刺されて感染した可能性が疑われています。

3. 市民の皆様へ

すでに都立代々木公園周辺で蚊に刺され、発熱等の症状がある場合には、早めに受診して医師にその旨をお伝えください。

4. 市民からの相談受付

青森市保健所保健予防課 感染症対策チーム TEL 017-765-5282

【参考】

デング熱について

(1) 発生状況及び感染経路

蚊が媒介するデングウイルスによる疾患で主に、アジア、中南米、アフリカなど熱帯・亜熱帯地域に広くみられます。人→蚊→人という経路で、蚊を媒介して感染しますが、人から人へ感染することはありません。デングウイルスを媒介する能力を持つヒトスジシマカは青森県以南の日本のほとんどで確認されています。

(2) 潜伏期間及び症状

- ・潜伏期間は2～15日（多くは3～7日）
- ・突然の高熱、全身の筋肉痛、骨関節痛、全身倦怠感、発疹等が現れます。

通常は1週間程度で回復しますが、ごくまれに重症化してショック症状や出血傾向を呈することがあります。

(3) 治療法

特異的な治療法はなく、対症療法が主体となります。
現在のところ有効な抗ウイルス薬はありません。

(4) 予防法

- ・屋外の作業等の際には、長袖、長ズボンを着用し、素足でのサンダル履きは避ける。
- ・虫除け剤の使用等によって、蚊に刺されないように注意する。
- ・室内の蚊の駆除を心がける
- ・蚊が発生しやすい環境（タイヤにたまった水・植木鉢の受け皿や空き缶に水がたまった状態など）をつくらないようにする。

[問合せ先]

青森市健康福祉部 青森市保健所 保健予防課
電話：017-765-5280

Press Release

平成26年9月2日

福祉保健部健康増進課感染症担当

電話 055-223-1494

FAX 055-223-1499

報道関係者各位

デング熱国内感染症例の発生について

デング熱の罹患が疑われる山梨県内の医療機関に入院中の患者について、国立感染症研究所において確認検査を実施したところ、デング熱の患者であることが確認され、医療機関から患者の届出がありました。患者は、直近の海外渡航歴がなく、国内でデング熱に感染したと思われます。

1 患者について

- (1) 年齢等 山梨県在住、10代、女性
- (2) 海外渡航歴 直近の海外渡航歴無し
- (3) 発症、受診 8月23日発症、8月24日県内の医療機関を受診、8月29日入院
- (4) 症状 発熱、倦怠感、筋肉痛 (現在、快方に向かっている)
- (5) 国立感染症研究所で確認検査を実施し、デング熱患者であることが確認された。
- (6) 蚊の刺咬歴 8月中旬、都立代々木公園周辺

2 関連情報

(1) これまでの患者発生状況

9月1日までに、東京都、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、新潟県において患者計22名が、都立代々木公園を推定感染地域とする国内感染症例として確認されています。

(2) 推定感染地域

調査の結果、患者が発症前に都立代々木公園周辺で蚊に刺されたこと、これまで確認された患者も都立代々木公園及びその周辺で蚊に刺されたことが確認されていることから、代々木公園でウイルスを保有している蚊に刺されて感染した可能性が疑われます。

デング熱は、ヒトからヒトへの直接の感染ではなく、患者から血を吸った蚊が媒介して、他の人に感染する疾患です。感染すると、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹等が症状として現れますが、一般に一週間前後で回復すると言われており、予後も比較的良好な感染症ですので過度な心配は必要ありません。

蚊に刺されて発熱等の症状がある場合は、医療機関を受診してください。

3 デング熱患者の県内発生状況

年 次	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
患者数	0	0	1	0	0	1	0	0	※1
渡航歴等			渡航歴あり			渡航歴あり			※本事例

4 デング熱とは、

(1) 概 要

- ・ 蚊が媒介するウイルスによる疾患で、アジア、中南米、アフリカ等の世界の広範な地域で流行しています。
- ・ ヒトが感染して発症すると、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹等が症状として現れますが、感染しても発症しないこともあります。
- ・ 症状は、1週間程度で回復し、予後は比較的良好な感染症です。
- ・ ヒト（患者）－蚊－ヒト という経路で蚊を媒介して感染しますので、ヒトからヒトに直接感染することはありません。

(2) 症 状

- ・ 突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹等が現れます。
- ・ 潜伏期間（感染してから発症するまでの期間）は2～15日（多くは3～7日）
- ・ まれに重症化して、出血やショック症状を発症するデング出血熱や、デング症候群に移行することがあります。

(3) 治療法

- ・ 特異的な治療法はなく、対症療法が主体となります。
- ・ 現在のところ、有効な抗ウイルス薬はありません。

(4) 予防法

- ・ 国内では、ヒトスジシマカ（主に日中で屋外で吸血する）がデング熱を媒介する可能性があります。
- ・ 蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。
- ・ 具体的には、次のことが挙げられます。
 - ① 長袖、長ズボンを着用し、屋外作業での、肌の露出をなるべく避ける。
 - ② 虫よけ剤等を使用し、屋内外で蚊に刺されないようにする。
 - ③ 室内の蚊の駆除を心掛ける。
 - ④ 蚊の幼虫の発生源を作らないように注意する。

（蚊は、水辺に産卵します。下水溝、廃タイヤの中や水桶等の人工的な環境下においても産卵し、増殖します。）

○関連リンク

山梨県福祉保健部健康増進課

<http://www.pref.yamanashi.jp/kenko-zsn/37471134462.html#denguefever>

厚生労働省「デング熱について」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/dengue_fever.html

報道提供資料

平成26年9月2日

(お問合せ先)

高槻市保健所

担当：森定 一穂

山下 茂信

電話 072-661-9332(保健予防課)

FAX 072-661-1800

デング熱の国内感染症例について

平成26年9月2日(火)、市内の医療機関から直近に海外渡航歴がないデング熱患者(3例)の届出が保健所に提出されました。

患者の概要及び市の対応等について、以下の通りお知らせします。

1. 患者について

(1) 概要

● 1 例目

- ・患者は本市在住の10歳代女性
- ・直近、海外渡航歴なし
- ・8月30日(土)から発熱等症状出現し、30日(土)、31日(日)と市内の医療機関を受診。31日(日)に市内の医療機関に入院
- ・症状は発熱のほか、発疹、頭痛。現在も入院加療中

● 2 例目

- ・患者は本市在住の10歳代女性
- ・直近、海外渡航歴なし
- ・8月31日(日)から発熱等症状出現し、同日、市内の医療機関を受診。9月1日(月)に市内の医療機関に入院
- ・症状は発熱のほか、発疹、関節痛、頭痛、後眼窩痛(こうがんかつう)。現在も入院加療中

● 3 例目

- ・患者は本市在住の10歳代女性
- ・直近、海外渡航歴なし
- ・9月1日(月)から発熱等症状出現し、同日、市内の医療機関を受診
- ・症状は発熱のほか、頭痛、リンパ節痛、悪寒。2日(火)入院

9月1日(月)、上記の血液検体を大阪府立公衆衛生研究所に搬入し、検査を実施したところ、2日(火)に3例共にデング熱の患者であることが確認できました。

なお、重症化の傾向はありません。

(2) 推定感染地域

関係者調査の結果、本件患者の3名は8月下旬に東京都の代々木公園を訪れていました。うち1名は、その際に蚊に刺されたことを自覚しています。海外渡航歴がないこと、及び同公園での感染が疑われる事例が発生していることから、当該地域での感染の可能性が疑われます。

2. 本市の対応について

現在、本件患者について調査を継続中。

【参考】デング熱について

(1) 概要

- ・蚊が媒介するウイルスによる疾患で、アジア、中南米、アフリカ等の世界の広範な地域で流行している。
- ・ヒトが感染しても、発症する頻度は10～50%で、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹等が症状として現れる。
- ・予後は比較的良好な感染症だが、まれに重症化することがある。
- ・ヒト（患者）—蚊—ヒトという経路で感染するため、ヒトからヒトに直接感染することはない。

(2) 症状

- ・突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹等が出現する。
- ・潜伏期間(蚊に刺されてから、症状が出るまでの期間)は2～15日と言われており、多くは3日から7日で発症。
- ・まれに重症化し、出血やショック症状を発症するデング出血熱や、デング症候群に移行することがある。

(3) 治療法

- ・特異的な治療法はなく、対症療法が主体。
- ・現在のところ、有効な抗ウイルス薬はない。

(4) 予防法

- ・国内では、ヒトスジシマカがデング熱を媒介する可能性がある。
- ・蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要。
- ・実用化されたワクチンは今のところない。